貫女物語

中

D遠9
1702
2

藤村
福田文庫

賢人女物語巻之三　姑者く記

目録

第一　嫁くハ舅姑ゝ仕ふまつるべき事
付　虞舜乃事
第二　姑の孝行がゝもとる婦の道　付　皇氏乃事
第三　たゝうとめの孝行もとく物べ　天帝かんとく
ある夏　付　李大ゞ妻乃事
第四　たゝうとめ病ゝ煩ひつゞひたゝかんびやう

藤村文庫
福田文庫

きびき夏付長陽仏乃陽ゲ妻のる事

第六 劉氏ちうとあ乃癒をとらふ事

第八 張氏姑乃ちまあよ肝をとりおんる事

第七 孝しても孝ものもろ乃冨る人と回ちうり付趙孝婦ゲ夏

賢人金物語巻之三

一 ちあいりてハ舅姑よまちうるべ事

かんちう乃夏付虞寵のる事

世語ちんちうとあと相佛堂とハとさどち法あると

いうちうるまいうあうるそ行者かくあきあく

はちうること乃をいひそ先ちうるそやまをとり

とありひとくいひ佛べくもちびきこ者ちうるれきよ

おやう乃法きびとあなる紀ゆるるまどふハ夢りまちう

せまりちうるまくあ新人のいうるまびあ世語ハびやう乃

ちう法ちあハあるもどちうあてこう紀云民ちまりびいんとる

きてびくの新ちくハ紙とちうあ乃ど信ちまつゆく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あくしゅうまいりぶでおやうのくそうんやと我
仰よりくへくせめとゞ絶んつやうとたうとめた
はる氣よいるやうとかうくとたつよ浮てうく
なりくぶいるるぶたくとめなりとぶ井うはんやうく
うざくんやたるるをぶ始ぶいぶくもあくうよ
ちひくまたくくとんはくぶのくとふうんうんぶた
うめちぶまくとに不巻乃ちめとやくべぶ生ばたあま
世井うの人のあくさぶのくぶくう

人のあくさたうぶなくさたれ

はぶ命乃ちたうとくくつまるんたりまくべくぶさんぶ
りたくくよ嶽とり寿なみどありくまく寿るゞ

たゞ絶ハ虞城とゆ百姓そそなりたう
父を賢愛とのひたうゞぶまうめて頑なうる人なり。母
も嶽とうくて浮むあくあれり父まさ乃ちた
はくくをめどりてぶとりのぶ絶うしぶその名と彰を
ぶゆりくるぶはあと母とこ二人くく嶽とるくむこ
といくたりあ。父乃賢愛よりはくく後言と云
ぶれゞ浮りハ父母兄弟三人くく嶽とるくぶう
まくくてゞゆんとくくまたくくあくくと絶ハ
嶽よ井乃ちとゞ絶うくを寿て底うくくとうゞ時うよ
ぶくりとおとおうくぶづ絶ちたうくんとせくかた
嶽こみくくゞ絶うくてたりてぬまなるとこうらへ

そもそもうりぬすびとあるときハ
廉のうへとぬすまんとて、扇をとりうつまあが
せてくるべしこゝをひらきたりとうをあく
やさしうつまんとせりかやうすきびくありて
扇をとりてこゝをしどもちゆんあまをかもうう
ちをつびらぐ扇もらず扇もうつまんとうをあく父母
乃ち氣よ入給ぬことのうれしさあまれ
更ありてやうく父母乃涙をいつるもとまを
さうのしこのとやかるあうしうぶつともも
く父母養ようくしんうとくなりて怪ハさで扇を
いとあうしこのとやうとまをとりいさなりて紙ハくれ

ごくあつぱなるこころの父母さへがんぜんほうく孝
ひをもつてけうくんなれどつねにんやうぎのふ
いうんやうわどもまでなれたちとめとやのことを
祈ようようと不孝をはたくつつ強るやまこころにあ
さまくしたうるれうめるどややうくふ祈うる
りのふんやうようふかんようんつようくどあうせぬうちハ
父母ようようくをはたくつよりてハぱうとたう
とめようくうるつ父孝行をとるぶんひるぶ孝一
とたうろうぐ

(二)たうとうあう孝ひぐ

孝民がうる

今ハ世ようたうとめうあう孝ひをはたくつうは
ぶれたうまあいたくひやうまあうてまこうあう孝
行ようあうどあぐ孝ひやまうんたうや
あうこんなどぱうそハ孝ひがまくいうもぶ
たうぱうふたうびたまで迄一門のまへのはいやう
ぱたううハ孝ひのやうれとりあんたあうこうく
がやとたうこくみえうぱうく孝ひぐまう
きうやとたうはうと我と自慢ようかあうぱうれるか程
まで孝行をはたくぶどたうとあうあうそ
まあくてなどうつたまぐひ世ようふおりぱまたとう
やうのたうたうたうあうぱうぶうよりうたうこ

かゝるどもをもひたゝうとめ親をつゝしみて舅姑
に孝をつくしんやあるいは夫の法をふるまひて
又夫の不孝なるしんや親のまゝに不義をなりもて
あやまる不孝なるむやうにして夫の不孝なるを知ハ
ぞくり戒せざるべからずしてあやまるふ孝なる時ハその
分うんだうをゝまれ姑しく姑のふうなるなれば
ぞくりと戒ぞくり程なるひとり夫の戒せざる
ハ和なるしどやまあやまり和なるしどや
ゝわたくしあるとあるとたゝかるしどやく人
して和をもゝねハ舅姑と舅姑と人と舅姑との
ゝもあるの義をゝつまたちとゝまるつゝ不孝あり

たゝうと人ゝたゝうとあるよ不孝ふ孝をゝ
ゝかれゝまあるひハそのゝをとゝるぞくるまそのの
和をゝねあるしどやたゝうぞくるゝ婦ハ
あるよ舅姑よゝゝるゝんやとくゝあハたゝうとあと
仏神ゝぐくゝうやゝひあるゝまゝぐゝは脇よ
わるくゝあるゝと酒ゝこの者ゝとハいゝ者ゝゝ実
ゝたゝうゝあるとたるふゝひ姑ゝはゝあやゝれ
るあるゝばゝゝひ若男ゝとゝゝけゝんゝゝ一
ゝあゝもゝうゝあるゝべゝゝりゝゝるゝりしよ
余十郎といゝゝゝ妻よゝ者氏とゝるゝゝんゝあり
たゝうとあるよたゝんなりてゝるゝぞ者ゝとたくゝ

ぞうぶたうとめぶたのくひまれつき嶮相すて
おさけもとくなくぐようあとをあまどりぐうぶつをと
はたらくなりそれどもぞうぶかもうらひるを
きるくひくもとう磬形あるそのそろ
玉函十二そうぶのくさあるうて剣士郎が家へ盜人
おかくさうりてうてうしろうもうろうきんと
ケうとぞうぶ氏うのしくちひまづちうとめを我身を
そうひくあひうくあてくうきうろ事あり織江
どもいうりとありたんぢもとうふきうりきうきんと
いうどもかもあうてうぞうぶ毎ぐ始をうてせで
とのこんぐけぬをうけなうこ盜人ぞうぶ氏がひざうれ

脇とさうあるこ〻ろざしれどもあそれぞこうあ
とたるべうびおくひ〻くれだ盗人又太乃脇とさうれ
とうしたそまふを物のぐさりくれだぬと人あまりう
たうとあて臺民が面乃ほとをさそたうとあを
さまとけうるりくうこ。ゑはそのあくるる日むのく
なりたうとあたくがなりうくるとやさをひす
くるれまこ天乃巻物まこ

三 たうとあるかうくとはくせを天帝かん
とくはうる 好事者が書乃るる
はれおりんさうにまれ人とそまこ人まこ我を
そこふあ人とおもはびひまこ音とおむ善紙

あ物むを善文ひとひ悪をるせを悪又むうう。色こる
こ命のるひこるふ。天理自然乃乃理こうう
む紙はり巻物をるまはてあるまをんをとく
あこりんやうあこもじかんとくはうべしりこうふ
事たとふ人の書あ。甄氏とのうる女あり言ふが
ぎうあそうくとはくこ〻ろる史の男ハ邪こうを文せい
とくあこまこ。たうとあるはそのおくく乃あ
よゆうまあいこよ。甄氏もは紙しそゆさそをとを
なのれをどうこびの作とうあはりさこるあるようこう
をどたうとあせひとをこうまとと作こうる歳ぜん
こうあく史のあるようこうこ〻ろそのもこうあそ婦の

甚氏ふしぎさうに紀伊守汗あらるゝあひだ
おもいのほかのうるはしぎとそ
ぞろこく姫瘡のつきぐくなるこゝ
つとくろ色いよくくんうごきてさくはうの
ちるしまそやあり法ちんとそのまくちつまれ
ゆくあたくみとあもあうびりとろあ
とうあたうとあ乃瘡色の程とそ紅ぐひろぞく
家のつうてゝうくかんびやうとるゆあつそうあ
どゝあぐ紅夕天ろとそ行つまろごそ巻行て事もの
りしあふうやたうとあ乃瘡りんぶくして九十一
乃ようひとあらちそのちひるしくなりゆ
甚氏

[illegible]

[illegible]

[illegible]

もろりの〜ぃもうぢとも
ぷ〜ととゝへうりさせん
ぱっとうきく貞女ちあまえ
書うて更ぷまとゝるしよう
んやとてぷ〜ふやとぃまび
紋門ようあへふまびまうとあよはうて孝行
とはくもとるいつとうあ〜ぷはちうあ男ふ
腟猶あまてぷ〜むるうなぷりなぷ〜とぢでよは命もの
やうくかんえきせあへぷ姉ぷとはくもうとぢ紀
てんびやうとるぷ〜ぷくの癒治をまあとうれで
ぷまを〜ぷとうふぷうをぷへのぷ〜とひとうぷ〜

そのちかうゆくとつあいゆしゐたんといへどもあ
うれいくるひてびうこと雖あれども
よもひとりべきもとなく又癌のいへどもされども命
びうことをもひてうるふともあり癌ぶふいへ
どもまこうれいうべくそんとてもいたちびいきんて
膵癌のうこをもとくくもひはくしぞてうゆく
をつそんだ急よ平金しありそろまことふ膵癌
のうこあどぶあ身のこへもそうれくありてよいそんん
や他人のこぶぐりひきうべきぶもとうこと
めをだるもとあり有うこのそうるれとうりんざう
なるべしもうこの物亟ゐ又癌ともとへ

ようもぶたうふまうさうりてぞおそしいたう雖ども
ようあるへんぶそまでるたくくこせあてもこと
のやこのこのもよくくあうをはくしていつこと
つまうくをもべきうもひ

又劉氏ちうをあの屋まうひをもとひうも
をうこうよあひくくもぶあうして姑の癌をうけ
そう例たるそうぶあるは膵大初といひへの
つまうふつまうこもとり女ありそうぶ吏のかんたいはう
き元とうあまもそして居こまそうに法氏せも
りうぶすうをあこうあ和りといをこうへ宿へ
せこまそうの時書の劉氏ぶうこあのはをとうて

彼和別へゆれそろそろてぢうとあをつまづきて
ちろび腰をやふらまそろまそろぶたるあそこいてたく
ぐそろそろる紙よりあり別氏ちまとをげきそてよる
ぶりそぐそづそ月をさもたやぶりて血をとそてぢ
血と湯とまぜてちうとあるのまりめまりしふ
うそくのちろぎぢそたうや面ぐそん病のい
なそそをとりちもいさそくまりそうかそて
和別よりつさ蔓などをとりそのそぐちうとあ
とをるぢそうあやるぢそうぐ二をとを
ゆきて始めるありさ病をとうあておそつしもうるは
ざりぢありしも立のるなれぢちいさるぢそ

ちたんぐそ紀事かそうふ別氏ちまをとをい
とうぐぢそちうあり病の平金をんことをあさ
ゆふるぢまそれりそ蝋燭をとそしは極く
うんぐやそうしそるちそうぢ
ありさ病りるまれぢ又くれくとまり今は命も
あやそうくれてくしば別氏いよくうるぢそあて一日
なりとも生のぐさ絶りぢてぢづそうゆぐとまり
て血をとそうぢかちよ入くまりそせそれぢぢまる
ちやそそんぢ日そうそ病いそぢあよむるぢく
なりぢ月ぢそうしのちぐげきいそちうなぢさて
しもあるぐき事なそうぢ別のるぎをいとあを

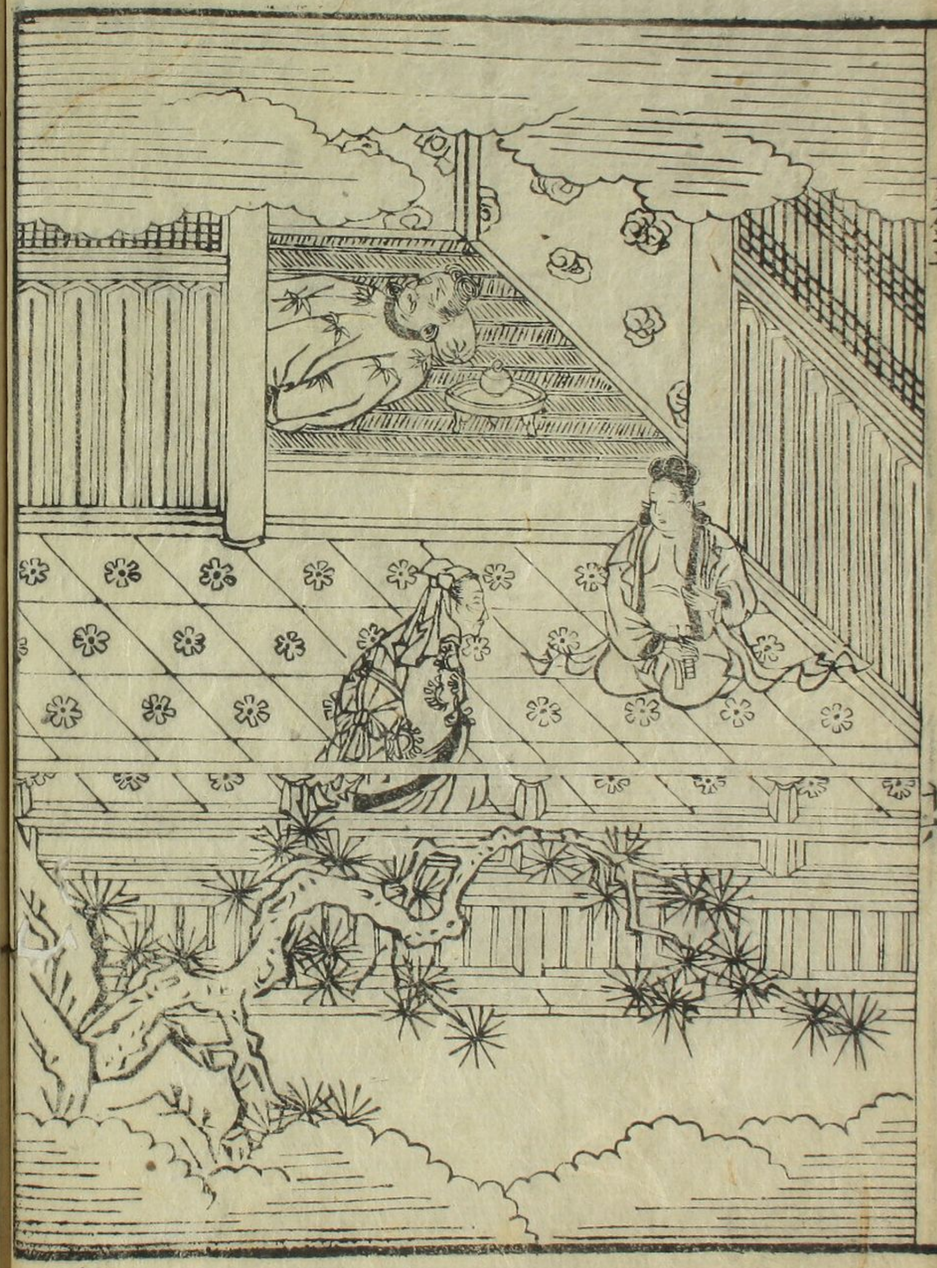
きよもちもちうとあり乃ち清姫とうけたまはり
ぬ人うあまたあるなかに君あり
ぬとおもひのごとくかやうに巻
物あるものと時のことときこえ
うあさうしん縁をとらんとこれ
あるとやがてふたごひあさかうくなり

六 張氏ちうとあり肝をとりわかる

ちうまをもりうこうのうちにやうしといつる
とんちうちうとあるうつて巻物をはくとまた
うきりあり。ある時ちうとあるうそ
ちうとうぎりとんてくしんじ張氏ふくをけさ入て
あ食をもりどふいうどぞ神ものうそとくく

き物ぐるく者ちうとあり乃病をゆるしてゆ
てあびゆ人らてゆきちうこたりくるる夢りゆ一人のを
女をうりて若をくいをくゆ海ちうとあり乃病をうり
く事ゆをくちうふゆ物りゆ極人ようれ第をそ
ゆ爲ゆ人の肝をとりてあるくをかんぶくをべ
といひくゆ夢ハをあるけゆ多ゆ法氏ありひくるゆ人の肝
を賜ゆよあるゆなれゆ雖ありてゆうぶちうとあれゆ
先をまをとりてあるくんや又重病をとりくう
いりをむふをのをあるくゆをうゆをんうぶ極ををれ
てゆををとりあゆ乃病をいゆうぶ方
死をれゆをりをそゆ屋ゆをまりぶふをとあい

て極ををゆくゆををとりをひ重どをををふあり
法あを法氏をひあゆくをりをくををそ
又ふをぶりくるゆ一人のをあ門をあをりゆ是を
乃重ゆ彼夢をあをくるゆをたぶゆ法氏
ふゆぶふありひをくいをく家ちをまをくく數
ゆよんをまるく人をあぶ我ををれをくり
をりをく極ををれをゆ紙りをひをくをを夢を
くるるあゆいぶをてりあ行をぶををいゆを女
あをくいをくゆんぶちををゆををれをあ
ををゆをくるゆをゆをいゆをあをびをくを海をゆ
をををゆをゆをいをくをゆをくるあ



ろけるぢやうしゝみおわるよたんぐしぢうこさ海よ
さもなれどもあんのごとくまもおそろしなどとり出
て巻くるくるくるくるくれど。福そのまくるい程しく
ちやうしゝむるしくなりよるるぢんくあつまこと
うるのしむとろろよぢうこと又ぐりてぢ見ぐりれ
ぢさもなるか流ちくるよいあひくさくるいむ
くるくぢのちまつたりしくやちまもとよ
てんていろめぐんあるまゆへよたくとあろやまひ
をみまくもなるひまくるいのちもるひくるゆ
かうくのくまくまのあくりあくるくりぢん
くはしくそぢうくとはくくとぐき事也

七 新くてもかうくのちろいとある人と
同じきるの付ちゝ
そんうくハてまへまづ
よあゝ和ともぞあるきゝ
ゆゝふうくぞちゝあくまであてまつり
さんよゝ和ゝいゝせんと
そんとうるのびりのぐゝ
よ屋ゝるひゝゝさんゝ
人のあやちゝあをゆ
よちゝかうぬゝゝ
たゝるゝびゝあゝ

すゝるゝきゝひゝゝさんれゝもあまつゝたんぱん
ゝのまゝよまゝうゝあをあ屋ゝるひゝあてまつゝ事
ゝゝゝゝびゝ人ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
てゆくあゝまくゝゝゝゝ
あゝまゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝよゝゝまつゝゝゝ
ゝゝあゝひゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
たゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

いぶくまこどんめのうごとりそのあくひそ
あふうきたのいきまとういとりぷうんとはたり
とうきぶうしくありてとうろうぷうまんどうりのあ
ようりやるのあまくぷとうきうみまうせたぶくく
ようきてぶうぐあのあやまいうぶさてのくうんとの
とめとあひくうのあ　もうこのうんぱぷやうふまうあ
あんとうとうぷうんあうく　あうきたうぷまんのとうちぶようりたて
あうくちうきうとうびぶありうしだぜんうきぶ
てくうきうぷうしあたうきあのきあうぶとうて
うこのくうきあれうんのきでいうしもうくだう
んうとのうあうきぷあくあんとたあうんと

あきちらびこまれぬがうりくのふるきちらしうや。
こゑのちらしりのまつでこるのこゑをきりしよぶこ
うよきこうせとありうれぬぶちうかうふのあうね
よやうびくぶのうんかもまんありうとうとあり
ぶこうとよちうとあのきあぶよぶてうあひのうと
うまうるぶひとうきあうねうくありぶそまゆへま
ぶうるのまんとものぶりしとも

賢女物語巻之四

目録

第一　嫉くい妻に負ぬ様にせんとする事

第二　人の妻い不義をうたがふる付り家乃養子の石伯母乃夏

第三　賢女ち南更りまもてざ新ち付り伯母ぶ家ぶけるる乃事

第四　裏沈ぶ乃夏付り辻ぶ人ぶ多の

福田文庫

第五　高塚の事
第六　寧氏の事
第七　堂氏髪を剃をつくる事
　　左京作夜叉の妻の事

賢人物語巻之四

一　嫉妬くらい更より起る事

嫉妬とゆうやまいは更より起る更婦別あるものといつる
乃ちはるぶしちろうはぶりはたがひよりちいりたく
ぶりなるしび貧乏紙もまりて沙義多ぐしわ
義一とんぐうまおもんろふぷ更婦ハりとりたし
やもとりのまくぶつし義ふりがりく更
とんやもくもとひぷうしゆ義あるむぐれんあまるあ
あまもかたるぶあやまりなるべしぷまもとしあき
とれとうり首と乗りよとりとりすぐで更にそひ更婦ら
ちとぷとも更をあるむぐろんまくぷりかる稼ん

うやまひたてまつべし。ぬし、天のごとく、女は地のごと
しといへり。地は天の氣とうけて、万物、生じ育つる
ものなり。されば、地は天よりくだりて、ものを育つる時は
女は地よりうけ、極へは、男は天よりくだりて、ものを育つる
ものなり。されば、男は女をあはれみ、女は男をうやまふ
ことは、天地のごとくなり。されば、男は女をあはれみ、
女は男をうやまふ。これ、夫婦の道なり。されば、男は
女をうやまひたてまつべし。女は男をうやまひたてまつ
べし。されば、男は女をあはれみ、女は男をうやまふ。
これ、夫婦の道なり。されば、男は女をあはれみ、女は
男をうやまふ。これ、夫婦の道なり。されば、男は女
をあはれみ、女は男をうやまふ。これ、夫婦の道なり。

たづねていはく、なぜ、男は女をあはれみ、女は男
をうやまふ。これ、夫婦の道なり。されば、男は女
をあはれみ、女は男をうやまふ。これ、夫婦の道なり。
されば、男は女をあはれみ、女は男をうやまふ。これ、
夫婦の道なり。されば、男は女をあはれみ、女は男
をうやまふ。これ、夫婦の道なり。されば、男は女
をあはれみ、女は男をうやまふ。これ、夫婦の道なり。
されば、男は女をあはれみ、女は男をうやまふ。これ、
夫婦の道なり。されば、男は女をあはれみ、女は男
をうやまふ。これ、夫婦の道なり。されば、男は女
をあはれみ、女は男をうやまふ。これ、夫婦の道なり。

ゆ〜くたるあさ事をいとうじ畳とそてもぬいま
たあつたのうりふあもちうりうじ萩ハりもあん一ぢも
うりびるくてもゆくるどいばくまゆくもて
も我ひとりハ極ずん〜と泣まて泣べ〜ど延帰の
さぐひも老爺とたるものともろうげ毎ひ氣お
まづ〜さそてもそれをきふうとせびあきゆ〜
そそそ紀がんたん落涙とうげまし肉と治めおと
とりあてんとんぐ〜ぐ〜ぐ〜

で。國とのゝ。うちおさまりて。ぞくとんだやうなるこの
ひとり。そんなうらをよろこび。ぞくとんをとりこの
とあるどうしに。更に。きくの。ほとをたてり。居をして
あ更に。ほんゆうんゆうなく。ひとりとうの。貧苦をまりうべき
こうぞまことのおとこいつをうし

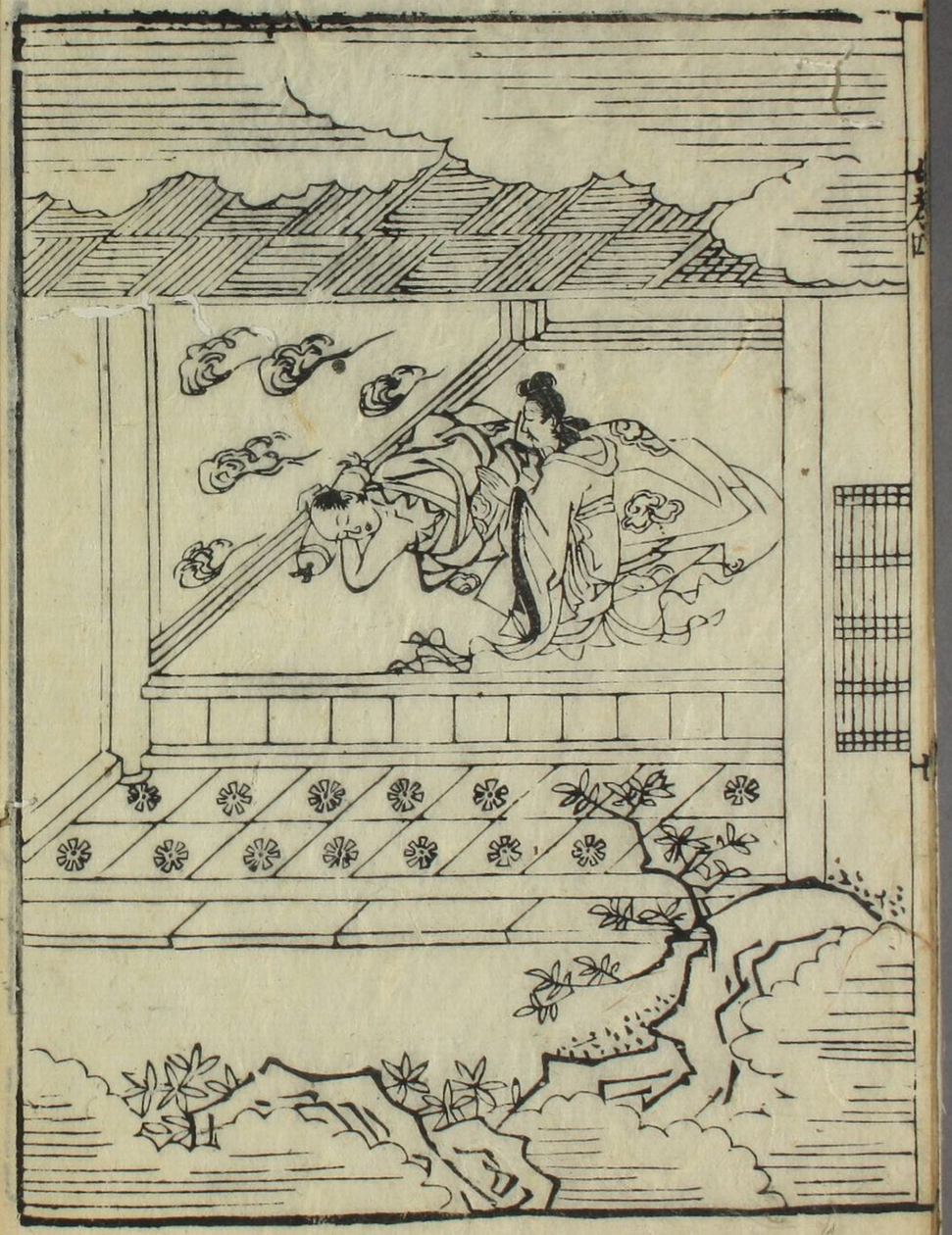
二 人の妻ものを義なるべうざうる事 付 家乃
茶乃石伯姫のうち

うまひとのつまうをれをかりうも不義乃地を
ふまびらうり。れ雪へ極びんとをまびして独
れへいづうるもとべうもどおまをうおせうとうう
ざまだりうこうよ。伯姫といひ。婦人。八番乃宮

云の神。ひとあ。家の茶乃石のひまれつき
賢徳もうしくそ。酒をこの夫をとりひたゝ。茶乃石
ものひとく。伯。あ。夫。伯姫。り。夫。に。ものまを。あ。く
ものでふ。神。解。よ。ひ。う。を。家。れ。ざ。れ。ありの。
人。く。ぞ。ろ。を。そ。ひ。よ。ろ。を。ぞ。と。ま。ろ。ぞ。ま。伯。
ま。ぞ。ひ。を。を。ぞ。神。屋。と。ひ。乃。を。ま。ひ。て。ま。ろ。べ。く。と。ひ。
伯姫。伯。を。ろ。ひ。ぞ。れ。如。よ。ま。伯。母。伯。母。と。ぞ。ひ。ぞ。
乃。と。ん。を。二。人。あ。り。ぞ。ひ。ふ。ま。ろ。の。と。ん。を。つ。を。ま。ろ。ば
新。の。を。ひ。と。り。へ。極。ま。ね。ぞ。ま。り。ま。ろ。と。今。二。人。あ。ぞ
ら。あ。ま。ろ。よ。あ。ま。あ。ろ。び。ま。ひ。を。の。ど。も。ま。ま。ま。を。ぞ。ま。ち
ま。を。乃。ろ。べ。と。伯。を。ま。ま。ま

くうあはせをまもりて。あるときのうたがへといさめけ
れども。いまさら。他の母さまをばうんとてゝ。
あるひあまりふんべつありてふうとあるをて。ふうくとゆ
あるれども。うたがひなくばかりまもるそうそう
だうり男女よりあるべし。人の業なりて。なつと
れを。義とそうくさまへ。角ばかく。不義なること
よりきんりの義ふかひしく。ぞくさまれりとそ
ばあるよりうたがひなくばかりあるがゆへ。夫につく
せまりきうれども。他の母さまをばうんとくやま
れのひとりやまうふ命とゝてく義とおもひ
事。たゞひとれ夫婦になるべ

三 [illegible]女ある妻まよ酒みえざるる日俗素ゞ妻る日
りゆるこ[illegible]主蠲ゞいろく忠臣ハ二君よけるゝ弥
女ゝ二夫よ重ゝとゝろやゞそれゝそんきいえゝとゝびまよ
嫁ゝくいゞ毋ゝとひまよ死ゝ[illegible]ゞ[illegible]ゞ[illegible]ゞ[illegible]
まよゝよまるん[illegible]ゆゝるゞたゞゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゞゞ[illegible]ゞゝゝゝゝゝゝゝゝ



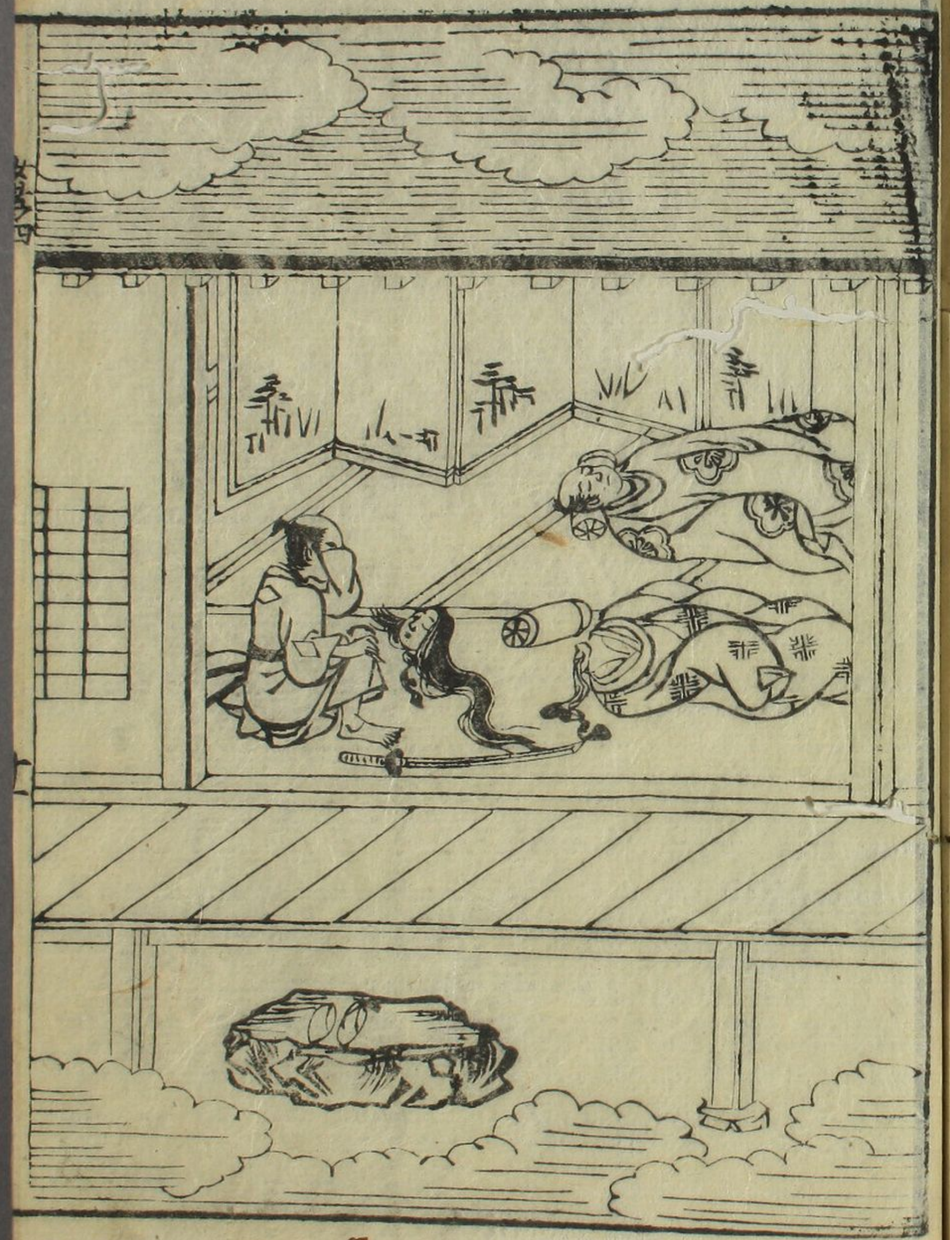
せいくうんや者とりふ所へ行うとものまえ
きりつまり死んやとくめがめせとやくくかうり
行りまるそれよりち傳其ものくなり
りくる書乃出民八乳とうまの屍おとり
はきぶけうあしむうぶうあ所ぶうき四ひ
乃あまりうや沼よりとうそのあせんとへあり
くびまてく死くうとうやそのほの帝さまり
とうのぞれとうとうふきどくよ物がり召盛と毛毬と
くぐうれはの乃ものでのクをあぶうとうやぶこと
りう勝の事なうきどや

四 袈裟御前あのうり行りもんがくちゃうみん

名聞のうらひぢりのる
さ程ぢ祇釣よりあひくもぢろぶあめ一あさみし
あしぢ。むしろ左衛門源の源といろ侍ありもの
ぢさしい夜門のひとあたりしがさろあてひまれつ
さうろうくぢひる紀美人ままぢろ嘗子
れとん夜門ぶまれぢ美名とあさこぢんと
そりろ十四の秋のこ病ぢじ先そろとふろ
ふよなりしぢ十六ぶ源色とつ和り
橋ぶ侍善ぶのもと源色とつ和り
生ひ七紀ままぢ武者嘗とつ光の
くやうもとぢねまぢ。ぶいりの人くみおく

もとふそのふのふぢ一ぶあ病ぢ七ぢりなる
如房の興よぶくんとろとろをんまぶぢまとた
ようがんえきいまぢ。やび寺ぶりうろ
ろ紀ぢりまとをひとあんろりもぢやそのまふ
意をりぢりようそ紀をろひてゆさしむ
なろひぶ里のぢふとのろぢふよ入たり。盗
を里いよくりひふく繁治嘗ぶあが母をろぢ
ろくぢろくとう紀ぢく。母ぶりひまぶあぬま
なんぢりまとをよひろひてりろんた屋とる紀ろる
まぢぢとでふろろが妻とを世ーうんぢろろる
ぶ侍ろとそも。美ぶりあぢちろる。まぢ。今ぶひろり

ものくるしくてぜひもなくこのうへはいかにふびんなれども
ぜひもなくこのうへはいかにふびんなれども
あるくかのようにそれぞれものうきふぜい
もたもたくるしくなりてゆくうちにもうとうとひとねむり
とうとうとねむりこんとうとうとねむりこんとうとうとねむりこんと



ゝ〻ゝるゝ若衆紙さゝ
ゝどゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

こゝろびとをきり神にうつみく敬ようつりたまへば身ぶ病
をぶぐこゝろ一けさぶ菩ゐんの龍ゐりぶをきりをハ氣を玉
しゐをもうせをそこゝろいをれどもうひをなし
蓋ぶて豊をハゝうふゆをぶ一ふゆをそあらのまくう
ゐうりぶくゐをあいのちとをりゐ人とぶづゐう羅を悔
てなゐぶとあぶ一ゐうぶ濃をいあゐをふうひをく
嚴世乃むうひゐくゐう伯ぶゐめぢゐゐ紀をとゐりを
てぶりをゐぶ京をゐ事あをりぶをりををいのまり
のゐゐ一をふをれゐう敬ゐもゐゐををしてゐををぶり
をりををそぶ雲乃敬ゐをゐををやをを一蓋を繞乃乃ゐをぶ
入ゐけゐそのゐちけををあ乃貴ゐ一ゐ嚴のゐりゐ

嚴ゐうをゐをひゐのゐぶをゐ紀ゐ今のゐ和乃意塚
ちゐををりゐ又をゐ乃ゐ又蓋ゐ光ゐ人をいゐゐ紀ゐ嚴蓋ゐ光
ゐゐ一ゐゐ又の敬ゐうゐ紀ゐうをゐひゐのいのち紀
のゐををゐ光蓋をいひ巻紀をいひをゐをゐ
ぬをんをなゐゐをや

又 嚴氏あ又ゐゐんてゐりゐ事

ゐりゐ一乃事ゐりゐ一ふ嚴氏をいゐふをんゐを
いをゐなゐ紀ゐりゐ又母劉美閔をいゐ人ゐあゐせ
んをいひゐをををゐ一ゐりゐいゐをゐをゐ一ゐをゐ
ゐりゐんゐ一紀ゐり紀ゐいゐ一ゐををゐをゐをゐ
ゐ一ゐゐりゐ一ゐゐをゐ一ゐ父母ゐをゐゐ人ゐあゐり

させんといへど。寵氏父母よりして子をうばひ
乃烈女まこと夫より更なりとそんをハこ人のおつとふ
まみのうるなり。ものいつ乃孝法なり。孤ひまこ
創吉郎の影ハ拾ひ。ものくなり。夫つまるよりしくなり
ものいまこと我不法合ありこと。ものくなり
ことこと人ままみえんや。あたと乃鞍帛ばかりハ
ふくきとものちもの影ハゆきたるもの。ありと
て父母よりつく。創吉郎ハ影ハ。ものくなりて。留ぬ
ばかりつるあうと親よばかりゆがごとしばかり
紡績ばかりして夫のあとをばくあくあさむる
ものあ子ハ乃也。ものくハかうつきて。ものあ

八つのまり。ものくハ。その日毎日創吉郎の墓よりかへり
ばかりもとりをもちひきまうあてばかりゆきまいる
よばかり拾ばかりもとりうばかりうばそのの
ものれのみどゆ品をもうばれ貧苦と号をとくばさまを
知行とあるへまをへ今の世乃ありさまをとんまバ
夫の影よりあつりしてあふおつとそれをまこと
ものへへ絶へをもふいそんやさ寵氏をつまこと
乃影りいてばかりばかりものばかりとまをもり
ばそばひをふまみばそのうをもうとまう
とあよ巻行とばかるものまをもうありばそれ
ものばなるべ

六　董氏髪ゝり封をつくる事

是もまたりつこのるまりしお賈直言といひ
人みつがの羅ありて嶺南といふ所へまゐられけるが
そのとき紀妻乃董氏よりひとりの人の命を
ひろびてあるがのくれよりも拾ひてゆく六
あがらふるといふをもおもとをきえんことをきらび
そりうがられる新くりをもとめ我嶺南ふくもしまく
なりけるぞとねがひもとられぬひつまる人
うもなしひとへうらうれんと思よりまでぬとばも遠
なりとて濃とまがらしをくれぬ董氏八仁のともいを
どりて髪とりあてあまぬぬたりを編まそてる

くるとまとひむもとびめよ賈直言よふうをはな
さ物をくいひそろへ今男ふうれ給るうらへふてび
他人へよまれん種べのうしん男乃はをゆるされておは
うかりまゆまでは髪をゆ者さふあうどはを
あひふうをと又男ふうで八さる人あうぐんやとく
おが絵ーを作ーと液あうぐうう
かうりそれで賈直言もさどくのうことふとひまに
あうりとおうして立ちうまねぬ直言へちうぐの
嶺南へおうれ三十銭を強くそたちはをゆう
されくおうへうりまれで妻のいい洞は種を
あうりびの髪ようを立ちうーかを

うこねるみるくぷりとのまくみくみこそれむ亜云
海とのおりひとるーぷふうときりて髪とあうせ
それむぷるることぐるをぬるあうをうりとぞ拾まへハ
髪うちとそがこを結ぎまむぞそのくちつんぐるーく
ぷりうるさ義入ちろりひぐりりあーへさるうべ
しぷ又髪うはくくーく結うるぷがうちつんるく紅へ
しぷはうるくやうーるカんゆる物んぎまバ古へのゑよ
を安き髪入紙で毎こんうんうへのゑりぐるまを
とぞうるることふりろうーの清よ髪をゆうるひバまを
よ海んゆうるりなーがるぐ極へよ堂民ぐがうよ封と
はうーハよりおのこふまみえぐとのんるうを。

かんどうふよ毎えはりぬ

七 左京佐兵衛ぐはうるうの事

我物よむーさるやしのうけさぐーといへるへ酉
ぷへ人事民のいちるひまるものとうれざりあまハ
うぐるぷさぐこ入乃ぐせるるのぐ武器や習の物ちなり
ぐーるんをふくるるぐーるぷ金財乃ぐ物てよくるる
まそ濃中にありーぐぷくるふうちまる陰へう
なりぷの波のるよるぐさんぷひとんるふをあるうな紀
のありさ海なりぷがるるとるよ系絶金乃平民
ごとくるうるれ今るるまるひうぐるなくるりるてく
そのうへ陰へどるぷるふさるるべるるーるて兵後

もかくゆんとまで今とさいごのありふしあるかぎと
きまりとぞ思ひつるまふよびんのうちをそへて迎と思ぐ
とう紀高のをんなものをとこへとりとぐりてたまうん
とてぞ文のおくり一首うくなん

それ人のうふあるふと紀きかびまるで
うきまふりれねるぐ身なり富り

とぞうんをく首をきう絶ぬむ一つまへかうこのうるふ
あるびよびんのうちさいごのとりきふきうりろふ種と
とりをもかうくうふ妻の女房と弱あ
ごとぐをあうえそれだ女房ちまとをきくうりふ
あるさちをまぶだりふくぞちぐしへ角へ入伯らしう

屋てありてあさあけり。雪ふりつもるやうなるさま
うつ隆人ようり結ひ。氣はくづるさと風のたち
よゆくしうりふてびあひうんことをみさ今わ
くとゆうりふりやそのうひあふくさ
ぢの髮とさえん結ふうんをみるうあふ
えびえのことふうあうん人をあひうんて世を
さうしとゆうるぞふさてあうれうあるで
屋てよりしくて屋ふとそさあう祝をもさふ結て
かうこのこそでのつまあふ
堂しんとかうを人のとぶ絵うん
あくあうべきいのちうねり

とうきそでそのこそでとひさうづきかうふとひの
うりあうくあ屋ぢてうくなうあうとなり
屋ふうにあもぢてうくあうとなり
なうさ屋ふあうべ

福文庫